



第40号

平成25年11月

発行 高知厚生病院  
広報委員会

◆ 高知厚生病院の理念・基本方針 ◆

理 念

私たちは、安全かつ質の高い医療を提供し、皆さまに信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さまとご家族、更に地域の皆さまの幸せのための医療を実践します。
2. 患者さまの権利を尊重し、真摯かつ温かい態度で接し、心と心が通い合う医療を実践します。
3. 自己研鑽に努め、更に発展向上を目指します。
4. 地域の医療機関や施設と連携し、効率的な医療を目指します。
5. 地球環境に留意し、災害への備えを怠りません。

過去・現在・未来

(その6)

副院長 山口 龍彦



この連載も6回目となった。過去のことはそろそろ終わりにして、今回からは現在のことや未来のことについて書いてみたい。

さて、まず質問から入ってゆこう。読者の皆様は「ホスピス」と「緩和ケア病棟」はどこがどう違うと思われるだろうか？

当院のパンフレットを見ると、Hospice（ホスピス）という横文字の下に「緩和ケア病棟のご案内」とあるから、同じものだと思われるかもしれない。実は、私も同じものだと考えていた時期が長くあった。それは、このシリーズを読んで下さっている方々にはお分かりであろうと思うけれど、私がここ高知厚生病院の中に「緩和ケア病棟」を創る時にモデルとしたものは諸外国の「ホスピス」であったからだ。

高知にもホスピス運動が盛んであった時期があるが、その運動に参画して要望しておられたのもホスピスという名前の緩和ケア病棟であったし、日本で初めてホスピス病棟を創った浜松の聖隷三方原病院や淀川キリスト教病院においても、モデルはイギリスのセントクリストファーホスピスであったから、ホスピス＝緩和ケア病棟というのは疑いがなかった。

では、諸外国のホスピスと日本の緩和ケア病棟はいったいどこが違っているのだろうか。

一番の違いは、日本の緩和ケア病棟が病院の中の一つの病棟として存在しているのだが、諸外国のホスピスは病院の外にあるということなのだ。現代のホスピス発祥の地イギリスでも、シリーズの中で紹介したアメリカ、オーストラリア、ニュージーランドにおいてもホスピスは医療機関などではない。

では、諸外国のホスピスはどのようなものかという、「(看取りも含め) 緩和ケアに熱心に取り組んでいる看護・介護施設」という説明が適当ではないだろうか。セントクリストファーホスピスもナースィングホームという位置づけであって、決して病院ではない。

そのため、日本の緩和ケア病棟に「入院」できる者は実質がん患者に限られているが、諸外国のホスピスでは、実にさまざまな病気の患者が「入居」している。がんという病気でなくなる方は、日本を含む先

進国では一番多くなっているが、神経難病や呼吸器病、心臓病、腎臓病、認知症などで亡くなる人も多い。日本では、多くの方が病院という治療の場、延命を目指す場所で亡くなられている。たとえそれがどんな病気であれ、末期ということであれば、ホスピスのように生活の質を最優先に考えるケアを提供できる場で過ごしていただくことがいいと思われるのだが、がんでなければ日本にはそういった場がないのである。

ホスピスとの違いをもう一ついうと「緩和ケア病棟は終の住処（つのすみか）ではない」ことだ。かつて、ホスピス＝緩和ケア病棟と誰もが思っていた数年前までは、「緩和ケア病棟はがん患者の終の住処」と理解されている方が多かった。抗がん剤治療を拒否された方や、さほど濃厚な医療処置が必要ない方でも入院することが可能であった。そこでは、ゆっくりと人生を振り返りながら、やがて訪れる死に対してさまざまな準備を整える余裕があった。



当院屋上庭園

しかし、今では症状を緩和するための濃厚な治療を必要とする方や重症の方が多くなったため、ゆっくりとお話をお聞きできたり、お花見や音楽会などさまざまな行事を共に楽しんだり、屋上庭園を散歩したり、6階の礼拝堂にてお祈りしたりできる方が少なくなってきた。

外来通院で症状を緩和することが困難なために入院された方は、症状が取れ、あるいは軽減すれば、家に帰らなくてはならないし、家での生活が難しいとなれば不本意ながら介護施設に移っていただくこともある。特に、がんのために体に機能的な障害を持った方や、がんのほかに認知症を合併していたりすると、ご自宅での生活が困難ということで緩和ケア病棟に入院することが以前はふつうに行なわれていた。しかし、現在においては「がんに対する医療的な介入がどれだけ必要か」ということが入院を受け入れる際のチェックポイントになっているのである。

「緩和ケア病棟」は「ホスピス」とは、もともと異なるものだったのだ。つまり、「ホスピス」をお手本として、「残された人生に豊かな時間を提供するための場」としての理想を掲げていたにもかかわらず、緩和ケア病棟は知らない間に本来のホスピスからは遠くなりつつある。この現象を「医療化（メディカライゼーション）」といって、私を含め、本来のホスピス＝緩和ケア病棟を目指していた人たちにとってはやや不本意なのである。

もちろん、時代の要請に応えて、緩和ケア病棟が益々忙しく、益々医療的に役に立つ存在となっているのは間違いなく、それはそれで大変ありがたいことだと思う。ただ、やはり本来の意味のホスピスが、本来の形で、つまり医療の外側にあれば、がん患者のみならず、先述したようなさまざまな疾患の終末期の方々のニーズにも応えられるのではないかと思う今日この頃である。



ホスピス・緩和ケアのご案内リーフレットより

## 緩和ケアレポート

### 緩和ケアレポート①

緩和ケア病棟師長 門田 和代

### ホスピス緩和ケア説明見学会・ミニコンサート

ホスピス緩和ケア週間の取り組みとして、当院では10月9日（水）に「ホスピス緩和ケア説明見学会」と「ミニコンサート」を行いました。参加者は少人数ではありましたが、近い距離でのお話ができ、色々な質問もあり、お互いにとっても有意義な時間を過ごすことができました。



ミニコンサートでは、歌とピアノの美しい音楽を楽しんでいただきました。一緒に参加していた患者さんの中には、涙ぐまれながら聴かれています方もおいました。ボランティアさんの優しい心で癒されるひとときを過ごすことができました。



## 緩和ケアレポート②

特定非営利活動法人日本セラピューティック・ケア協会 高知支部代表 橋本 有子

### セラピューティック・ケアって？



心とからだに寄り添う”手当て”

セラピューティック・ケア



9月から高知厚生病院でボランティアに参加させていただいています。

患者様ご家族様に「気持ちがいね〜」「ぬくいね〜」とお言葉を頂いております。

5年前より、一人で、パンフレット配り、施術を伝え続け今では、高知支部（四国全体）で会員20名となり、積極的にボランティア、イベントに参加しています。「手のぬくもりは心のぬくもり」高知から四国全体に笑顔で発信します。



セラピューティック・ケア（Therapeutic Care）」は、「治療力のある介護」と直訳されます。もともとは、病院・ホスピスへ届けるボランティアのためのケア法として、イギリス赤十字社により確立されたものです。その手技には「エフルラージュ（なでること）」と「ニーディング（こねること）」の2つがあり、現在は「ハンド & アーム ケア」「ネック & ショルダー ケア」「レッグ ケア」の3つの種類で構成されています。いずれも「オキシトシンホルモン」の分泌を促すことにより、施術をされる人のみならず、する人にも安らぎをもたらし、両者の間に強い信頼感を生じさせます。



お茶のお香  
香りがお部屋を  
包みます

## 緩和ケアレポート③

医療ソーシャルワーカー 山下 梓

### 「リレフォーライフジャパン2013in高知」に参加しました

今年も、リレフォーライフの季節がやってきました。

10月12日（土）12時から13日（日）12時までの24時間、城西公園でいのちのタスキをつなぎます。高知厚生病院は、両日とも日中のみではありますが、チームを結成して参加してきました。がん患者さん、ご家族そして支援者が一つとなり、グラウンドを歩く姿はとても心温くなる光景でした。



今年の高知厚生病院チームの特色は、職員のお子さんの参加がとても多かったこと。「歩きたくない〜」とチームテントに座っているお子さんもしれば、走り回っているお子さんもいました。たくさんのお子さんや支援者が思いを込めて書いたルミナリエバッグを見ながら「来年は、僕も書く！」と言ってくれたお子さんもいたようです。

それぞれの思いをつなぎながら、みんなで頑張って歩きました。参加して下さった方々

の笑顔をもた  
上手に歩けるかな？  
来年にもつな  
ぎたいと思います。参加して下  
さった皆さん、ご協力いただい  
たみなさん、本当にありがとう  
ございました。







## 通所リハビリテーションとは？

## 通所リハビリテーションこうせい

介護保険で、要支援か、要介護の認定を受けた方が、リハビリや体操、レクリエーション、入浴などにより、生活、心身の健康維持を図るための制度です。送迎があります。車いすのまま乗れる車もあり安心です。介護保険で定められている利用料の1割の自己負担と、食事（600円）、おやつ（100円）の代金で利用できます。

高知厚生病院の5階にあり、見晴らしよく広々としています。

見学やお試し利用も出来ますので、受付や当院職員までお気軽にお声をおかけください。

### ☆1日の流れ

8:30～9:30 到着後	送迎車にてご自宅までお迎えにいきます 健康チェック（血圧、体温等の測定）
9:15ごろ～	リハビリ・入浴・創作、趣味活動など
12:00ごろ	昼食
12:30ごろ	口腔ケア
14:00ごろ	集団レクリエーション（体操・ゲームなど）
15:00ごろ	おやつ
16:00ごろ～	送迎車にて自宅までお送りします



### 体操

色々な体操を行います。  
体操・タオル体操・ストレッチ・  
口腔体操・ラジオ体操など。  
日によって違います！



### 趣味・創作活動



この絵は、色のついた紙を一つ一つ丸めて貼付けています。小さく紙を丸める作業、貼付ける作業、分担することもあります。

### 屋外レクリエーション

みんなで、年2回お花を見にいきます！



4月(国分寺)にて！ 桜見学



11月(春野ピアステージ)にて！ 菊見学

## 院内行事

### 10月16日 3階病棟運動会



はちまき密に  
力がみなぎります!!

3階の病棟で運動会を行いました。みなさん入院中ですので、行う競技は、高齢で動きにくい方でも出来るように工夫しました。不思議なもので、はちまきをする、表情がピシッと引き締まり、普段は出せないような、声やパワーがでていました。職員も一緒に楽しむことが出来ました。皆様、お疲れ様でした。



当院は  
平成15年9月22日より  
日本医療機能評価機構  
認定病院となっております。



◆ 特定非営利法人  
日本緩和医療学会より認定研修  
施設として認定  
されました



◆ 厚生労働省より  
医師の卒後臨床  
研修施設の  
認定を受けまし  
た

### 編集後記

秋も深まってきました。今年は台風がたくさん来るので、心が休まりませんが、注意は怠らず、秋を満喫していきましょう。



高知厚生病院

〒781-8121 高知市葛島1丁目9-50 Tel.088-882-6205 Fax.088-883-1655  
ホームページ <http://www.kochi-koseihp.jp>